

コンケン大学での居候生活 (20)

伊藤信孝

コンケン大学客員教授・工学部

長引くコロナ禍で、誰しも今か今かとその回復と、終焉を願っているのだが、一見回復したかに見え、また安定為てきたかに見えた時期になると1,2名の感染者が出ただけでも、途端に警戒警報が発せられる。聞くところによると、検査の結果、感染者と言うことになると隔離を勧められるが、それでも隔離されたくないという事になると、強制的に隔離処置が成される、その場合の経費(罰金)は4,000THBと言われる。日本円にして12,000円程度であるが、入院費などについては自己負担なのかどうかは聞いていない。自己負担と言うことになると、おいそれと感染されることも許されない。先週生じた、病院関係者の2人が感染していたことで、すなわち検査の結果が陽性であったと言うことで、途端に多くの市民が自宅待機させられ、出歩くなと言う”おふれ”が出る。病院は感染者と非感染者とを区別した病棟に分けられ、できるだけ病院に近づくなと言う”おふれ”が出る。アパートでは感染者数が即刻張り紙でアナウンスされ、よく見ると、外出は朝6時からであるが、帰宅は夜8時までで帰宅せよと言う厳しいお達しである。大学野講義の多くはオンラインとなり、キャンパスでは学生の顔を見ることは極めて少なく、マスクを掛ける事が義務化されているから顔も余り見えない。服装から、彼らが男子か女子かを見分けるのがやっとなるところである。アパート住まいの筆者について、困ることを今後のことも考えて記録に残して置きたい。

不急不要の外出は自粛せよとの通達が出ると、県を跨ぐ旅行や出張もできなくなる。日常生活で困るのは、特別に行く場所が無く、アパートにとどまること以外に無くなるからである。一日だけでは無く1週間も、またそれ以上もそうした生活が続くのである。オンラインセミナーが頻繁になり、あるいは日常化し、そのことが唯一の活動日課になるが、アパートではインターネットも接続が多少不安定であり、今ひとつ信頼性に欠ける。となると最も信頼できるのは大学のオフィスと言う事になる。また、アパートに一日も居れば余分に電気料金もかさむ。エアコンや扇風機を掛けっぱなしにしておらなければ成らない蒸し暑い日もある。出歩かないから運動不足で健康にも良くない。また自分だけならともかくアパートには隣室に宿泊人もいる。此方が騒音を出しても良くないし、逆に相手が出しても迷惑である。運動という事で散歩に出たり、ジョギングしても、何時間も続けているわけには行かない。どこに身を置けば良いのか、大変困る羽目になる。また長期にこのような日常生活が続くと食料も買い込んで貯蔵しておかねばならない。まさに「踏んだり、蹴ったり」である。食料もいくら調達して備えなければならない。多く買い入れると如何に冷蔵庫といえど長持ちしない、逆に少ししか仕入れてないと、これまたショッピングに出かけねばならない。コンビニはほぼ開店しているが、レストランは締まっている。

しかし、文句や不平を言っても事態は変わらない。何某かの具体的解決法を見つけないと解決にならない。そこで少々身勝手な対応であるが、次のような対応をして居る。基本的に自宅待機と言うことであれば、逆に自分一人が大学に行き、自分のオフィスで一人で仕事をしていても感染の危険はないではないか、と言う身勝手な考えである。もちろんスタッフを通じてその許可は得るが。文字通りキャンパスでは人っ子一人見当たらないし、大学に来ているのはセキュリティ・ガードのみと言っても過言では無い。一般に週末は土、日の2日間という短い期間であるから、余程のことが無い限り建物の全部が施錠されているわけではない。長期の休暇になると出入り禁止となる事があると言われるが、特別に口頭で申請して毎日オフィスに行くようにして居る。メールや添付ファイルの印刷（プリント・アウト）や署名の必要な書類のスキャンなど、オフィスに出向かないとできない職務もある。もちろんトイレもあるしエアコンもある。普段の勤務と変わらないのは当然である。だからといって必ずしも仕事が思うように迅速にできるとは限らない。精神的にやる気が無ければ一日居ても仕事は進まない。コロナ禍では気分も良くなならないし、まだ普段と変わらない程度に仕事ができる程度の生活を維持できることに感謝すべきであると自分にも言い聞かせている。やるべき仕事の量もコロナ禍で削減されているが、むしろ仕事量が多いほど、迷わず仕事をできること、また余計な事をする時間が無くなり、仕事に集中できること、などを考えるとやはり多忙であるほど仕事の能率は上がる。もちろんそうしてできた成果の質が高いかどうかは別の評価ではあるが・・・。

毎日オフィスまで歩いて出向き、ほぼ夕刻5時半から6時頃までの一日を過ごし、歩いてアパートに戻るというのが筆者の毎日の日課になって居る。不自由なことに変わりはないが、アパートに釘付けと言う毎日でないだけに多少の自由度はある。有り難い話しである。そのために、行き帰りの途中にコンビニに立ち寄り、必要な品を購入して手に入れることができるので多くを購入為て貯め置きしておかなくても良い、また長期の保存で購入した食料品、特に野菜関係が傷んだり、腐ったりする事も少なくできる。筆者の感覚では毎日オンライン講義を負担しても良いと思うほど時間はある。時間があると如何にも仕事ができるかに思うが、反って逆である。余程精神力が強くないと、あっという間に時間が過ぎて充実した毎日には成らない。

「天災は忘れた頃にやってくる」と言う諺があるが、今回のコロナの場合は1年半も継続中で忘れてもいないし忘れられない。つい昨年、あるいは3ヶ月か半年前にパンデミックになったという新しい記憶が消えない間に、新型の変異株だとか、余りにもその移り変わりが早急すぎる。経済活動を元に戻すべく、ロックダウンを解除すると、直ぐに新しい波が立ち上がり、たちまち元の状況を超える事態に急激に復帰し、あるいはそのレベルを超える危険な状況に復帰するかに見える。一方で不急不要の外出を禁止しても、他方で抜け道があって外国人が「特段の事情」でかなり入ってきているのではないかと、との指摘もある。そうかも知れないが、もしそうだとするならば余りにも国民は低い扱いを受けているのではないかと考えさせられる。ワクチンもいくつかの国が競って開発を進め、ようや

く接種開始にこぎ着けた感に見えるが、後遺症や死者が出て、その信頼性にいまいち欠ける製品もあると聞く。どのメーカーの製品を接種するかを選択肢があるのかどうかははっきりしない。日本では選択肢があっても、邦人がタイでどの様に対応すべきかは正確な情報を入手、確認してからにと考えて居る。あまり慌てて対応を焦ると上記の様な不都合に出合わさないよう、また後悔しないようにしたいものである。こうした憂鬱で、手持ちぶさたの日常生活の中でわずかに気分を和らげてくれるニュースの一つが米国のMLB（メジャー・リーグ）のエンジェルスに移籍した大谷翔平選手の活躍は目を見張るものがある。オープン戦でもかなりの活躍を耳にしていたが、試合の観戦も人数制限もあるようだが、一応観客も動員され、連日LIVEでの映像も見ることができる。渡米直後からピッチャーとバッターの二刀流が成り立つかどうかの気体を背負ってのスタートであった。今年度は体の調子も良く、怪我も無く、のびのびとプレーして居るように見える。同じチームのクリーン・ナップを打つ強打者でさえ開幕以来5本程度と言うのに大谷選手は7本（2021年4月26日現在）を記録した。またピッチャーとしても登板し、期待された二刀流の到来かと騒がれている。さらに外野手としての起用もあった。2000年始めに移籍したイチロー選手は期待以上の比類の記録を10年間も継続維持し、日本政府からの2度に及ぶ国民栄誉賞授与の声にも「未だ修行の途上にあるから」という理由で固辞し、48才で野球選手としての人生に終止符を打った。前人未踏の新しい記録や、イチロー選手だからこそ可能とした、度肝を抜く輝かしい記録は日本人として、また同胞として誇りに思うのはごく自然の事であろう。安打数、盗塁、エリア51と言われる鉄壁の守備範囲は語り尽くせない。イチロー選手の移籍前の「日本での試合見物」に出かけた知人が、切符が売り切れであったがダフ屋が球場前にうろついて居たので、少々高価ではあったが、買って球場に入ったと言うことを聞いた。その知人は「それでも、イチロー選手の活躍は見るだけの価値がある」と言っていたのを今でもはっきりと記憶している。「そんなものかなあ」と想っていたが衛星放送など情報化時代の到来と共にテレビで頻繁にMLBの試合を視ることが出来るようになると、「もう、そのプレイの凄さ」に圧倒されてきた。今年の大谷選手は、コロナ禍で打ちひしがれた日常生活に一陣の光を与えてくれるような存在に見える。イチロー選手とはひと味違ったヒーローの登場である。ピッチャーとして剛速球を投げ、打っては一試合にマルチ・ヒット、ホームランもある。足も速いし、盗塁数も増やしている。二刀流どころか万能に近い。近頃は自信から来る余裕も手伝い、のびのびとした動きに見える。日本人選手の活躍は当然のことながら、野球に限らず日本人には大きな励みになる。同時に誇りでもあり、名誉でもある。10日ほど前に学部からの要請で学部生・院生に特別講演を依頼された事は既述した。

その講義でも強調したことは、いつでも行動を起こす体勢に自分を置き、歩み寄る問題を如何に自分に取って良き機会とするかという、見る目を日頃から養い、育てる事がプロフェッショナルへの、あるいはプロフェッショナルとしての心得である。毎日の多量の練習量（あるいは作品量、仕事量）のたゆまぬ継続的蓄積が知名度を上げ、作品あるいは製

品の品質を向上させる。如何に過去において優秀な成績を残しても維持、持続していなければ、即座に高いレベルの成果を出すことはできない。継続為て練習量をこなし、しかるべき時に即座に行動を越す準備をして居るからこそ対応が可能なのである。では毎日大量の練習を消化し、継続維持為ておれば「仕事の成果」の質が上がると書いたが、ではオリジナリティはどうか？オリジナリティとは独自の考え方、アイデアを意味する。これについては若干意見が異なる。大量の練習量を継続為て、経験を積めば実績も増え、質も上がることは確かであるが。オリジナリティが次から次へと出て来るかと言えば、「No」である。ではどうすれば良いか？

特別講義では次のような事を推奨した。それは五感を使う事である。「知っていること」と「理解して居ること」とは異なる。知っているレベルから理解するレベルに進むには、うわべ（表面）のみを見て判断しているのでは理解のレベルに至らない。それには「見る」、「聞く」、「臭いをかぐ」、「味わう」、「触る」事が必要である。すなわち直接自分の体で覚える習慣をつけることである。この五感是人それぞれに感じるレベルが異なるからである。研ぎ澄ました五感の利用を習慣にすると、「第六感」による予測的中する確率も上がる。理論はともかく現場で即座に近い将来を予測（直感）したり、近い将来に生じるであろう事態の憶測も時には可能になる。必ずしも100%の確率というわけには行かないが「第六感」が冴えることは確かである。オリジナリティは、むしろこの五感の利用（＝直接肌で覚える、学ぶ）から育まれると考えて居る。理論を勉強することが重要であることは言うに及ばないが、理論ばかりの知識では社会的ニーズや消費者ニーズをつかみ、シーズを用意する、（あるいはしておく）ことは難しい。特に企業経営で「これから何を作れば良いか」などの先を見た戦略の構想打ち立てには、研究でも同じであるが重要である。何が問題で、それにはどのような物を使って、どのような方法で解決するか、という状況判断が極めて重要であり、必要である。このあたりについては、過日実施の機会を頂いて行った特別講演で配布したアンケートの集計を考えて居るが、詳細はこの報告、まとめの中でさらに展開したい。理論の重要性は筆者が大学院に行くことが決まった時に、恩師の一人が言われた言葉が忘れられない。此処にそれを残しておきたい。「他の学友達は、社会に出て就職し、社会に貢献する事になるが、貴方は未だこれからも大学に残り学生生活をする身となるのであるから、余程勉強しなさい。かといって何をすれば良いかと言えば”理論に強くなる”こと」ですと。